事業所一覧



内尾事務所
〒701-0212
岡山県岡山市南区内尾665-1
TEL.086-298-2122
FAX.086-298-2496



津山圏域クリーンセンター リサイクルプラザ
〒709-4611
岡山県津山市領家1446
TEL.0868-57-0153
FAX.0868-57-2226



岡山県自然保護センター
〒709-0524
岡山県和気郡和気町田賀730
TEL.0869-88-1190
FAX.0869-88-1195





水島事業所
〒712-8074
岡山県倉敷市水島川崎通1-18
TEL.086-440-0666
FAX.086-444-2933



倉敷市資源選別所
〒712-8074
岡山県倉敷市水島川崎通1-18
TEL.086-447-4850
FAX.086-444-4575



環境学習プラザ「アスエコ」
〒700-0907
岡山県岡山市北区下石井1-2-1
イオンモール岡山6F
TEL.086-230-1333
FAX.086-230-1334

サステナビリティレポートについて

エコアクション21　環境経営レポートを含んでいます
本レポートに関するお問い合わせは、下記までお願いいたします

公益財団法人 岡山県環境保全事業団 総務部
〒701-0212 岡山県岡山市南区内尾665-1
TEL:086-298-2122　FAX:086-298-2496
URL:https://www.kankyo.or.jp

この印刷は水質保全に有効な水なし印刷方式を採用しています。
この印刷には環境にやさしい植物油インキを使用しています。
リサイクル適性Ⓐ この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。
ミックス 紙｜責任ある森林管理を支えています FSC® C000000

サステナビリティレポート

2026

活動の期間　2025.4.1−2026.3.31



エコアクション21
認証番号0011996

2026 健康経営優良法人
KENKO Investment for Health
中小規模法人部門

公益財団法人 岡山県環境保全事業団

発行日　2026年8月1日

Contents

1 理事長メッセージ
2 法人概要／経営理念／経営方針
3 事業活動内容／財務ハイライト／環境活動の実績
4 環境負荷削減目標（2025～2026年度）、取組結果（2025年度）
本業に関する目標（2024～2026年度）
6 本業に関する環境目標取組結果およびトピック　資源循環事業部
8 本業に関する環境目標取組結果およびトピック　環境調査分析部
10 本業に関する環境目標取組結果およびトピック　自然保護センター
11 本業に関する環境目標取組結果およびトピック　環境創造部
12 本業に関する環境目標取組結果およびトピック　総務部
13 代表者による全体の評価と見直し指示
実施体制・組織図
環境法規等の遵守状況
14 循環型社会形成の取組
16 許可事項

取得している主な認証・認定

エコアクション21 認証番号0011996	エコアクション21	環境	環境省が定めた環境経営の仕組みを構築し、実践する企業を認証・登録する制度（制度創設:環境省、認証・登録機関:一般財団法人持続性推進機構）
Testing LAB RTL02920	ISO/IEC17025	品質	正確な測定や校正を行う能力を有する試験所や校正機関を認定する制度 （認定機関:公益財団法人日本適合性認定協会） 試験所:公益財団法人岡山県環境保全事業団 環境調査分析部 認定範囲:化学試験・産業廃棄物分析（産業廃棄物に含まれる金属等の検定方法）
2026 健康経営優良法人 KENKO Investment for Health 中小規模法人部門	健康経営優良法人 認定制度 （中小規模法人部門）	健康	特に優良な健康経営を実践している企業を認定する制度 （制度創設:経済産業省、認定機関:日本健康会議）
おかやま 子育て応援宣言企業	おかやま子育て 応援宣言企業	子育て	職員の子育てを応援する取り組みを宣言し、県が登録する制度 （制度創設:岡山県、登録機関:岡山県）
女性が活躍しています！	えるぼし認定	女性活躍	女性活躍推進法に基づく一般事業主行動計画の策定・届出を行った事業主のうち、女性の活躍推進に関する取り組みの実施状況が優良である等の一定の要件を満たした事業主を認定する制度（制度創設・登録機関:厚生労働省）

理事長メッセージ



公益財団法人　岡山県環境保全事業団
理事長　吉田光宏

公益財団法人岡山県環境保全事業団は、「わたしたちは環境関連事業を通して社会の持続的発展に貢献します」との経営理念のもと、資源循環型社会の形成や、良好な生活環境の確保、自然と共存する社会づくり、地域環境の保全など、環境保全の観点から、快適で持続可能な地域社会の実現に貢献するため、さまざまな事業を実施しております。

当事業団は、環境関連事業に取り組む法人として、環境に配慮した経営を行っており、環境マネジメントシステムとして「エコアクション21」を採用し、組織全体の環境負荷に関する削減目標を掲げ、削減に取り組んでおります。

また、各部においても取組テーマと目標を設定し、その達成状況を評価するとともに、評価結果を次の取組に活かすPDCAサイクルを回すことで、環境保全と組織としての成長の両立をめざして取り組んでおります。

このレポートは、当事業団が行っている環境配慮型経営の取組状況を紹介するため、毎年発行しているものです。このレポートを通して、当事業団の環境に配慮した経営への取組についてご理解を深めていただければ幸いです。

また、当事業団は、エコアクション21中核事務局として、中小企業者の環境経営の取組の支援も行っており、地域における環境経営の拡大につなげるためにも、引き続き自ら環境に配慮した経営を進めてまいりたいと存じます。

皆様には、当事業団の環境に配慮した経営の取組に対し、今後とも変わらぬご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

お問い合わせ先
公益財団法人 岡山県環境保全事業団 総務部
〒701-0212 岡山県岡山市南区内尾665-1
TEL: 086-298-2122 / FAX: 086-298-2496
MAIL: ask_ask_ask@kankyo.or.jp
URL:https://www.kankyo.or.jp/contact/

法人概要

■名　　称　公益財団法人岡山県環境保全事業団
■設　　立　1974年10月1日
■役職員数　評議員 14名　理事 9名　監事 3名
　　職員 121名　(2026年4月1日現在)
■代　　表　理事長　吉田 光宏
■出捐総額　16億2,650万円
■出捐状況　地方自治体6、企業45、企業組合等5、計56団体

■環境経営責任者及び担当者　環境経営責任者：常務理事　田中 勝士
　　担当者　　：総務部　中川 直巳 (連絡先：086-298-2122)

経営理念

わたしたちは環境関連事業を通して社会の持続的発展に貢献します

経営基本方針

・新しい価値と質の高い環境関連事業を提供します
・誠実で透明性の高い経営で社会の信頼に応えます
・働きがいと公正な機会のある職場を作ります
・地域社会の一員としてSDGsの達成に貢献します

行動規範

・社会倫理を重んじ規律・約束を守ります　(倫理観)
・自ら考え、自ら計画し、自ら行動します　(主体性)
・志を高く、枠を超えて、仕事に取り組みます　(チャレンジ)
・対話を大事にし、思いと方向性を共有します　(同心協働)

経営方針

この経営方針は、経営理念「わたしたちは環境関連事業を通して社会の持続的発展に貢献します」を実現するため、経営における課題とチャンスを踏まえ、定期的に見直し、経営システムを継続的に改善します。また、事業団で働く全ての人に周知を行い、公開します。

【行動指針】

・安全衛生と健康を第一に、法令等を遵守し、SDGsを含む環境、5Sを常に意識し行動します
・各自の業務について、「ムダ・ムラ・ムリ」がないか見直し、ITの活用などにより活きる時間の創出に取り組みます
・2030年温室効果ガス排出量20%削減(対2028年度推計値)、2050年カーボンニュートラル達成に向け、環境負荷削減に取り組みます

【重点施策】

1.資源循環

・水島処分場において、長期的な処分場の安定的確保のため、第2処分場の供用期間を延長するための各種許認可手続きを完了し、適正な管理運営を行うとともに、嵩上げ終了後も埋立処分事業を継続するための具体的な方向性を検討します
・水島クリーンセンターにおいて、安定的な操業を行い、下水汚泥の処理事業を持続するための新たな処理方法や施設の方向性を検討します
・みずしま資源再生センターにおいて、安定的な運転を行い、焼成品の無害化と安定化の処理技術を確立します
・倉敷市資源選別所において、障碍者の方が勤務する職場であることを前提に、安全・安心な管理運営・施設整備を進め、資源の有効活用に取り組みます

2.環境調査分析

・分析単価の見直し等を行い経営基盤の安定化を図るとともに、情報提供と顧客ニーズの把握により、顧客サービスの充実に努めます
・自動分析装置の活用や作業手順の見直し等により、分析技術の更なる向上と効率化に努めます
・生物データベースの継続的な拡充、人材育成、宣伝活動等により、生産性の向上と新たな業務の開拓に努め、ブランド力の向上を図ります
・岡山県自然保護センターにおいて、魅力ある企画や情報発信、フィールドの活用により、利用者4万人以上の達成に向けて取り組みます

3.環境創造

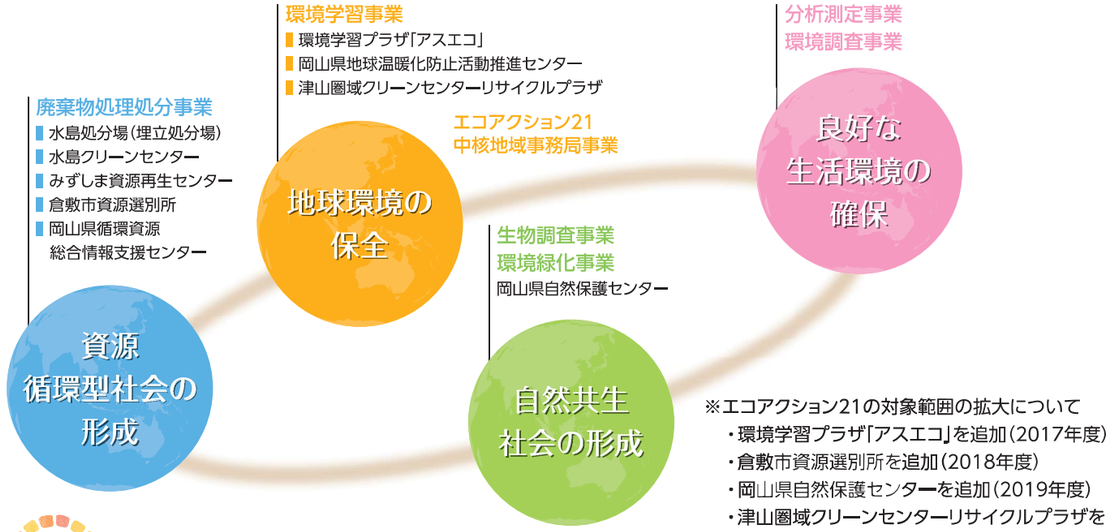
・事業団のブランド価値向上を目指し、脱炭素やSDGsに関連した国内外の重要課題を切口に、県内の地域社会を対象に持続可能性を高めるサービスの開発に取り組みます
・環境学習プラザ「アスエコ」において、イオンモール岡山や入店者との協働により、地球環境問題解決に繋がる新たな購買活動の促進に取り組みます
・津山圏域クリーンセンターリサイクルプラザにおいて、環境問題への取り組みを促進する拠点として機能するために、資源のリサイクルと環境学習の推進を図るとともに、新たな普及啓発に取り組みます

4.カーボンニュートラル

・事業者として温室効果ガス削減のための活動を行うとともに、地域に対してカーボンニュートラルを推進する普及啓発活動に取り組みます

2024年6月13日
公益財団法人　岡山県環境保全事業団
理事長　吉田 光宏

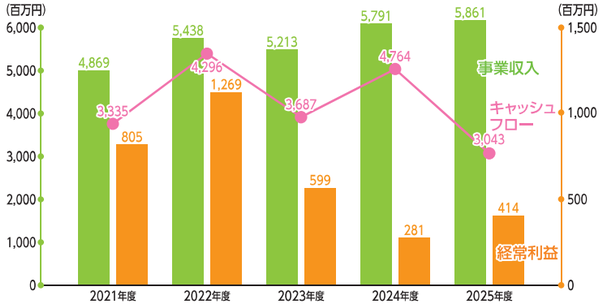
事業活動内容



※エコアクション21の対象範囲の拡大について
・環境学習プラザ「アスエコ」を追加(2017年度)
・倉敷市資源選別所を追加(2018年度)
・岡山県自然保護センターを追加(2019年度)
・津山圏域クリーンセンターリサイクルプラザを追加(2020年度)

財務ハイライト

■事業収入・経常利益・キャッシュフロー



経営状況・財務状況

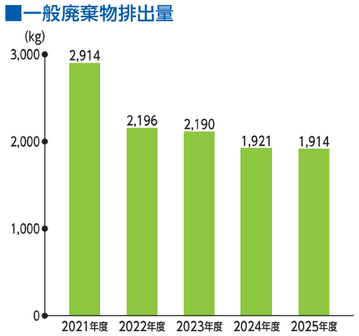
・事業収入(売上高)は、みずしま資源再生センターの稼働が寄与したことにより、前年度を上回る売上を達成しております
・経常利益は、各事業における費用の精査、施設・設備の維持管理方法の改善、業務の効率化等により経費削減を図った結果、前年度を上回る結果となりました
・キャッシュフロー残高は、約30億円となっております

環境活動の実績

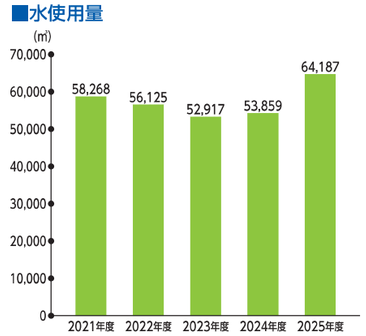
■CO_2排出量



■一般廃棄物排出量



■水使用量



※1 購入電力排出係数：2021～2024年度　0.585kg-CO_2/kWh(2021年度中国電力調整後排出係数)
　　2025年度　0.484kg-CO_2/kWh(2025年度中国電力調整後排出係数)
※2 内尾事務所、自然保護センターは2023年8月から中国電力の脱炭素電気の導入開始 (CO_2排出係数0kg-CO_2/kWh)
※3 水使用量については水島事業所・倉敷市資源選別所の工水及び岡山県自然保護センターのタンチョウ棟の浄水含む

環境負荷削減目標（2025～2026年度）
取組結果（2025年度）

	単位	2025年度 目標	2025年度 実績	評価	2026年度 目標
二酸化炭素排出量 ※1	t-CO_2	32,675	26,829	○	32,348
省エネルギー（内尾事務所）	原油換算kL	96.66	95.62	○	96.66
省エネルギー（水島事業所） ※2	原油換算kL/千t	16.90	13.62	○	16.90
省エネルギー（環境学習プラザ「アスエコ」）	原油換算kL	3.12	3.00	○	3.10
省エネルギー（倉敷市資源選別所）	原油換算kL	9.91	9.62	○	9.91
省エネルギー（岡山県自然保護センター）	原油換算kL	15.69	15.09	○	15.53
省エネルギー（津山圏域クリーンセンターリサイクルプラザ）	原油換算kL	0.12	0.04	○	0.07
一般廃棄物排出量	kg	2,298.7	1,913.9	○	2,074.0
浄水使用量（岡山県自然保護センターを除く）	㎥	13,138	12,840	○	13,752
浄水使用量（岡山県自然保護センター）	L/人	39.24	39.60	×	38.80
化学物質	—	適正管理			

※1 購入電力排出係数は0.484kg-CO_2/kWhとする
内尾事務所、岡山県自然保護センターは2023年8月から中国電力の脱炭素電気の導入開始（CO_2排出係数0kg-CO_2/kWh）
※2 水島事業所は排水処理場、水島クリーンセンター、水島処分場を含む。原単位原油換算（kL）/汚泥+廃プラスチック類（千t）で設定
みずしま資源再生センターは、環境経営マニュアルに記載してあるとおり除外する

本業に関する目標（2024～2026年度）

部署	活動テーマ	3か年活動計画 2024年度	2025年度	2026年度
総務部	DX推進に向けた環境整備とマネジメントシステムの見直し	・グループウェアのクラウド化 ・電子決裁システムのクラウド化 ・ChatGPT利用率50%（全プロパー職員数に占める割合） ・全体会議の電子化に向けた一部試行（部所長会議・安全衛生委員会） ・売掛金管理システム導入完了	・全団会議の電子化 ・ChatGPT利用による生産性向上時間900時間/年 ・マネジメントシステム運営にかかる工数10%削減（2023年度比）	・経費支払方法見直し方針の決定 ・ChatGPT利用による生産性向上時間1,800時間/年
	人的資源の価値向上とウェルビーイングな職場づくり	・人事評価制度見直し完了 ・人材育成体系の見直し完了	・OJT制度の見直し完了 ・職種別キャリアパス完成 ・ウェルビーイングアンケート結果10%向上	・内尾事務所レイアウト見直し工事の基本設計完了 ・ウェルビーイングアンケート結果2%向上
	カーボンニュートラル	・太陽光発電設備の増設	・電気設備のトランス、コンデンサ更新	・内尾事務所2,3F断熱工事の基本設計を12月までに完了、実施設計を3月までに着手
資源循環事業部・水島事業所	公共関与産業廃棄物処分事業の新たな方向性の策定	・安定的な管理運営を継続 ・埋立期間の伸長手続き完了 ・安定的な処分容量を確保する方策の検討に着手	・安定的な管理運営を継続 ・安定的な処分容量を確保する方策の検討を継続	・安定的な管理運営を継続 ・具体的な方向性の決定
	下水汚泥廃棄物処理事業の新たな方向性の策定	・安定的な運転を継続 ・汚泥ストックヤードの完成と運用の開始 ・下水汚泥の堆肥化の検討に着手 ・新たな処理方法や施設の方向性の検討に着手	・安定的な運転を継続 ・下水汚泥肥料の肥料登録及び栽培試験の実施 ・新たな処理方法や施設の方向性の検討を継続	・安定的な運転を継続 ・下水汚泥の焼却残渣の肥料利用を検討 ・新たな処理施設の整備方法を検討

部署	活動テーマ	3か年活動計画 2024年度	2025年度	2026年度
資源循環事業部・水島事業所	焼却灰資源再生事業の基盤確立	・処理依頼への円滑な対応 ・安定的な運転の確立 ・CO_2発生量を抑制する対策の導入 ・焼成品の品質を確保	・安定的な運転の継続 ・焼成品の品質を確保 ・焼成品の用途を検討	・安定的な運転の継続 ・設備保全のための維持管理計画の立案 ・焼成品の品質を確保 ・焼成品の用途を確保
	カーボンニュートラル	・水島クリーンセンターの安定操業と効率的な運転管理による灯油使用量の削減 ・CO_2発生量を抑制する対策の導入：みずしま資源再生センターのBDF運用開始 ・太陽光発電による購入電気量の削減：PPA購入量1,000MWh/年以上	・水島クリーンセンターの安定操業と効率的な運転管理による灯油使用量の削減 ・みずしま資源再生センターのBDFの安定確保による灯油使用量の削減 ・太陽光発電による購入電気量の削減：PPA購入量1,000MWh/年以上	・水島クリーンセンターの安定操業と効率的な運転管理による灯油使用量の削減 ・みずしま資源再生センターの灯油使用量の削減（BDFの安定確保及び再生重油への油種変更の可能性調査） ・太陽光発電による購入電気量の削減：PPA購入量1,000MWh/年以上
環境調査分析部	顧客サービスの充実と経営基盤の安定化	・パートナーシップ推進会議（1回/月） ・顧客訪問件数（年間50件以上） ・標準料金表の改定 ・労務費等の見直し及び価格改定	・パートナーシップ推進会議（1回/月） ・顧客訪問件数（年間100件以上） ・ホームページ（業務内容）のリニューアルの準備 ・収益状況の整理及び今後の対応策等の検討	・パートナーシップ推進会議（1回/月） ・顧客訪問件数（年間100件以上） ・ホームページのリニューアル ・収益状況の整理及び今後の対応策等の検討
	生物データベースの拡充とその活用による生産性・分析力の向上と顧客とのパートナーシップ関係の構築	・データベース拡充と活用 ・人材育成及び宣伝活動の計画立案、実施	・前年度計画の継続実施	・データベースの既存、新規業務での活用 ・宣伝活動による業務委託や相談件数増加
	分析業務の生産性を高める取り組み	・作業手順書の作成、改訂（10件/年） ・内部精度管理計画の作成・実施 ・資格取得支援制度を活用した業務に関する資格取得に向けた学びの推奨 ・作業手順の見直し、自動分析装置の導入計画（2項目/年）	・作業手順書の作成、改訂（10件/年） ・内部精度管理計画の作成・実施 ・資格取得支援制度を活用した業務に関する資格取得に向けた学びの推奨 ・作業手順の見直し、自動分析装置の導入計画（2項目/年）	・作業手順書の作成、改訂（10件/年） ・内部精度管理計画の作成・実施 ・資格取得支援制度を活用した業務に関する資格取得に向けた学びの推奨 ・作業手順の見直し、自動分析装置の導入計画（2項目/年）
岡山県自然保護センター	人材育成の推進とフィールド整備による維持管理	・安定的に利用者35,000人以上を達成 ・多様な利用者が楽しめる企画の実施 ・持続的なフィールド基盤整備 ・第5期指定管理業務の受託	・新規ボランティアを10名以上確保 ・持続的なフィールド基盤整備 ・マツ枯れ、ナラ枯れ対策 ・フィールド基盤整備に係る協力団体との連携	・新規ボランティアを10名以上確保 ・持続的なフィールド基盤整備 ・マツ枯れ、ナラ枯れ対策 ・フィールド基盤整備に係る協力団体との連携
環境創造部	脱炭素・SDGsの推進に向けた市町村・企業の取組支援	・環境創造事業での新たな受注額300万円以上	・市町村相談対応5件以上 ・岡山県、岡山市、倉敷市主催エコアクション21認証取得研修会参加企業10社以上(再受講者含む)	・市町村相談対応5件以上 ・エコアクション21認証取得研修会参加企業20社以上
	脱炭素・SDGs分野の普及啓発に向けた県との連携強化	・アスエコ、津山リサイクルプラザの新規受注金額および寄付等100万円以上	・県への提案3件以上	・県への提案10件以上
環境学習プラザ「アスエコ」津山圏域クリーンセンターリサイクルプラザ	カーボンニュートラル	・カーボンニュートラル関連の施策・補助金情報の発信・提供回数1回以上	・カーボンニュートラル関連の施策・補助金情報の発信・提供回数1回以上	・カーボンニュートラル関連の施策・補助金情報の発信・提供回数1回以上

本業に関する環境目標取組結果およびトピック
資源循環事業部

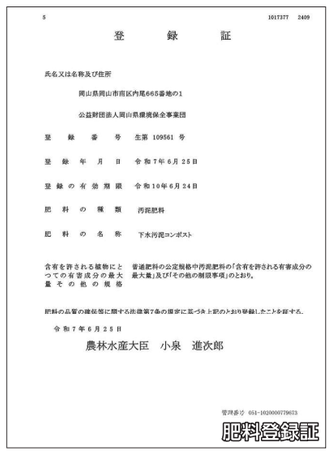
【評価】○達成　△一部未達成　×未達成

サイト・部署	取組テーマ	2025年度目標（到達点）	評価	目標達成状況
資源循環事業部・水島事業所	公共関与産業廃棄物処分事業の新たな方向性の策定	・安定的な管理運営を継続 ・安定的な処分容量を確保する方策の検討を継続	○	・嵩上げ埋立を実施しており、安定的な管理運営を継続 ・安定的な処分容量の確保策の概略検討が完了
	下水汚泥廃棄物処理事業の新たな方向性の策定	・安定的な運転を継続 ・下水汚泥肥料の肥料登録及び栽培試験の実施 ・新たな処理方法や施設の方向性の検討を継続	○	・安定的な運転を継続 ・下水汚泥肥料の肥料登録を取得し、カボチャの栽培試験を実施 ・新たな処理方法や施設の方向性の検討を継続
	焼却灰資源再生事業の基盤確立	・安定的な運転の継続 ・焼成品の品質を確保 ・焼成品の用途を検討	○	・安定的な運転を継続 ・焼成品の品質確保について、成分分析及び物性試験を実施し、データを蓄積 ・焼成品の用途検討を進捗中
	カーボンニュートラル	・水島クリーンセンターの安定操業と効率的な運転管理による灯油使用量の削減 ・みずしま資源再生センターのBDFの安定確保による灯油使用量の削減 ・太陽光発電による購入電気量の削減:PPA購入量1,000MWh/年以上	○	・水島クリーンセンターは設備の更新、改良、修繕等により安定操業を行うことができており灯油の使用量削減にも寄与できている（灯油使用量は800kLの計画に対し564kLとなり、約71％） ・年間BDF使用量140kL、その他再生油の試験運転を実施 ・年間PPA購入量1,132MWhとなり、目標達成

トピック❶ 下水汚泥の肥料化について調査しました

下水汚泥を肥料化し、その有効性を調べるため、肥料成分・発芽・植害等の試験を実施し、肥料登録を行った後、圃場での栽培試験を行いました。

結果、下水汚泥肥料は通常の肥料の一部代替として使用が可能であることが確認できました。


登　録　証

氏名又は名称及び住所
岡山県岡山市南区内尾665番地の1
公益財団法人岡山県産廃協会事業団

登録番号　生第 109561 号
登録年月日　令和7年6月25日
登録の有効期限　令和10年6月24日
肥料の種類　汚泥肥料
肥料の名称　下水汚泥コンポスト

含有を許される植物にとつての有害成分の最大量その他の規格　普通肥料の公定規格中汚泥肥料の「含有を許される有害成分の最大量」及び「その他の制限事項」のとおり。

肥料の品質の確保等に関する法律第7条の規定に基づき上記のとおり登録したことを証する。
令和7年6月25日
農林水産大臣　小泉　進次郎

肥料登録証


肥料の散布


苗の植え付け


作物の育成状況

トピック❷ みずしま資源再生センターで焼却灰をリサイクルしています


みずしま資源再生センター

●みずしま資源再生センター

2023年に稼働を始めた「みずしま資源再生センター」では、これまで埋立処分又は県外に運ばれリサイクルされていた焼却灰を1,000℃以上の高温で「焼成」することにより無害な焼成品「ハレスナ」にリサイクルしています。

焼却灰の県外への長距離運搬に伴う環境負荷の軽減や処分場の延命化につながっています。

●焼成品「ハレスナ」

焼却灰を焼成しリサイクルされた焼成品「ハレスナ」は土木・建築・造園資材などに再利用し、山土や海砂などの天然資源の消費を抑制することで、自然環境の保全に寄与します。

ハレスナ


焼却灰焼成


焼成品（ハレスナ）


土木工事に利用

「ハレスナ」の品質の確保と用途検討を目的として、各種試験を実施中です。


配管保護材試験


防草材試験


土質試験

本業に関する環境目標取組結果およびトピック

環境調査分析部

【評価】○達成　△一部未達成　×未達成

サイト・部署	取組テーマ	2025年度目標(到達点)	評価	目標達成状況
環境調査分析部	顧客サービスの充実と経営基盤の安定化	・パートナー推進会議(毎月1回) ・顧客先訪問(年間100件以上)	○	・月1回パートナー推進会議にて顧客からの問合せ、相談対応の情報共有を図った ・顧客先への訪問127件
	生物データベースの拡充とその活用による生産性・分析力の向上と顧客とのパートナーシップ関係の構築	・データベース拡充 ・データベース活用方法検証 ・人材育成計画の見直し、実施 ・宣伝活動、ニーズ調査計画の継続実施	○	・協定で実施した調査結果及びアセス書11冊分のデータ入力を実施 ・既存業務及び新規業務に活用 ・生物調査関係の研修を受講し、研修内容を課内共有 ・作成した宣材を用いた営業及びヒアリングによるニーズ調査を継続的に実施
	分析業務の生産性を高める取り組み	・作業手順書の作成、改訂(10件/年) ・内部精度管理計画の作成・実施 ・資格受験および講習会参加(10回/年) ・作業手順の見直し、分析機器導入、更新計画の検討(2項目/年)	○	・16項目の作業手順書の作成、改訂実施 ・日本環境測定分析協会のSELF参加(5項目) 内部精度管理(回収試験)の実施 ・環境計量士の受験、講習会等17件参加 ・既存機器の適用試料の拡大及び手順書の作成

トピック

生物データベース拡充とその活用

●岡山市生き物情報地図の公開

2022年3月に岡山市と締結した「生物多様性保全の推進に関する連携協定」に基づき、連携して取り組むこととなった、野生生物情報の相互共有事業として、生物の情報等の整理を進めました。取りまとめたデータについては、2026年4月からホームページ上にて、「岡山市生き物情報地図」として公開を行っています。

この情報地図は、岡山市及び当事業団の双方が保有している野生生物情報を同一のプラットフォームにて整理・管理しながら、必要時に必要なデータを取り出すことのできる仕組みを構築したものとなります。広く一般に公開することで、皆さんが見ることができると同時に、自然や生き物に興味を持っていただくことのできる貴重なツールとなっています。

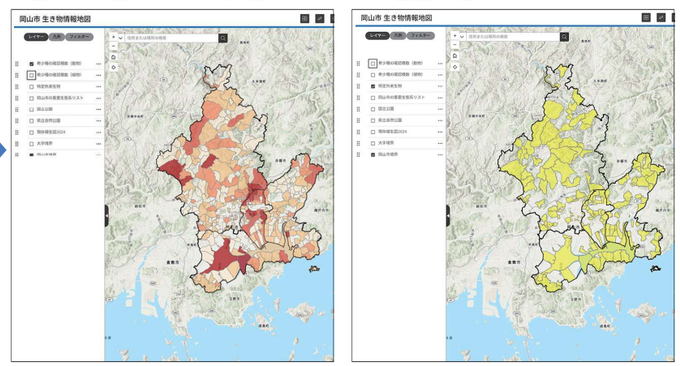


環境保全事業団のホームページ
https://www.kankyo.or.jp/survey_analysis/biodiversity-map/

岡山市 OKAYAMA CITY　協定　OKAYAMA 公益財団法人 岡山県環境保全事業団

生物多様性保全の推進に関する連携協定

岡山市内に生息している動植物について、地図上で確認することができます。



希少種の確認種数(動物)

特定外来生物

●またまた!日本初記録の蛾を発見!



環境調査分析部では、岡山市、新見市などと生物多様性の保全等を推進していくため連携協定に従い様々な調査を行っています。また、企業からのご依頼や独自の調査等を通じて、県内全域の動物や植物に関するデータの蓄積を行っています。

事業団の職員が県内の自然環境の調査を行っていく中で、2022年に新種の蛾である「シロオビシダマイコガ」を、また2024年には日本初記録の蛾である「マキエツツミノガ」を発見しました。また、この度、2025年にも日本初記録の蛾である「ウスコウツツミノガ」を発見することができました。

地域の生物多様性を保全するためには、身近な自然の大切さを知っていただくことが重要です。今回の発見がそのきっかけとなり、県内における保全活動が一層活発になることを期待しています。

★2022年に発見!(2024年報告)



ニセマイコガ科のグループに属する蛾
「シロオビシダマイコガ」

★2024年に発見!(2025年報告)



ツツミノガ科のグループに属する蛾
「マキエツツミノガ」

★2025年に発見!(2026年報告)



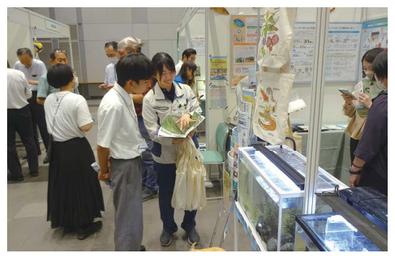
ツツミノガ科のグループに属する蛾
「ウスコウツツミノガ」

●イベントを通じた宣伝活動（おかやまSDGsフェア2025）

2025年8月7日から8日にかけて岡山コンベンションセンターで開催された「おかやまSDGsフェア2025」にブース出展しました。ブースでは、生物多様性に関する活動を中心に、事業団が推進するSDGsの取り組みを紹介しました。

生物多様性は、SDGs(持続可能な開発目標)の達成を支える基盤であり、極めて重要な要素です。今回は、生き物と私たちの関わりをはじめ、環境省が進める「自然共生サイト」(民間の取組等により生物多様性の保全が図られている区域を認定する制度)、さらに岡山市・新見市との生物多様性保全・自然環境保全に関する連携協定などについて、パネル展示を通じて自治体、企業、県民の皆さまに向けて情報発信を行いました。







お魚の水槽や昆虫の標本、パネルなどで、生物多様性の大切さを紹介しました。

多くの方に事業団の想いや取り組みについて知っていただくよい機会となりました!





ブース来場者に、フェアオリジナルのエコバッグをお渡ししました!

本業に関する環境目標取組結果およびトピック
岡山県自然保護センター

【評価】○達成　△一部未達成　×未達成

サイト・部署	取組テーマ	2025年度目標(到達点)	評価	目標達成状況
岡山県自然保護センター	人材育成の推進とフィールド整備による維持管理	・技術講座、ボランティティア研修の実施、新規ボランティア登録者を10名以上確保 ・マニュアルに基づくフィールド整備、マニュアルの更新、関係団体との連携、マツ枯れ等の対策を実施	○	・技術講座、ボランティア講座を実施し、17名の登録者を確保 ・年間通してマニュアルに基づくフィールド整備及びマニュアルの更新を実施 関係団体と連携してマツ枯れ等の対策を実施

トピック1 自然共生サイトに認定

地域における生物の多様性の増進のための活動の促進等に関する法律に基づく「自然共生サイト」として主務大臣(環境大臣、農林水産大臣及び国土交通大臣)により認定されました。

●登録サイト:岡山県自然保護センター　●登録日:2025年9月16日　●面積:101.25ha

自然保護センターでは、自然共生サイト認定を受け、世界的な取り組みである30by30目標達成に貢献していくとともに、引き続き、緑豊かな里山環境の保全、維持を通じて、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

※「自然共生サイト」とは、森や里地里山、緑地など国立公園などの法律上の保護地域に加えて、企業や地域、団体、個人などが主体的に取り組み、生物多様性の保全が認定された区域を指し、「30by30」の達成に向け、国が認定する国内の制度です。



トピック2 タンチョウのヒナが誕生

岡山県自然保護センターでは、自然への理解と自然保護への意識を高めるため、行事の開催や啓発など、さまざまな活動を行っています。

その一環として、国の特別天然記念物であるタンチョウの保護に取り組んでいます。この度、4年ぶりとなるタンチョウのヒナが誕生しました。公募によって「ツムギ」と名付けられた女の子のヒナは、現在もすくすくと元気に育っています。



本業に関する環境目標取組結果およびトピック
環境創造部

【評価】○達成　△一部未達成　×未達成

サイト・部署	取組テーマ	2025年度目標(到達点)	評価	目標達成状況
環境創造部	脱炭素・SDGsの推進に向けた市町村・企業の取組支援	・市町村相談対応5件以上 ・岡山県、岡山市、倉敷敷市主催エコアクション21認証取得研修会参加企業確保10社以上(再受講含む)	○	・相談対応8件で目標達成 ・研修会参加企業11社で目標達成
	脱炭素・SDGs分野の普及啓発に向けた県との連携強化	・県への提案件数3件以上	○	・提案件数6件で目標達成
	カーボンニュートラル	・カーボンニュートラル関連の施策、補助金情報の発信、提供回数1回以上	○	・カーボンニュートラル関連の施策などの情報について発信1回で目標達成

トピック1 エコアクション21認証登録企業交流会の開催

●どのような取組支援・どのような相談内容

環境経営継続の動機付けを目的として、登録事業者13社を対象とした交流会を2月18日に開催、13社が参加、先進的な取り組みを行う経営者の講演や、共通の課題をテーマとした意見交換を実施しました。

●成果としては

参加した12社から「非常に有意義であり、取組意欲が高まった」との、次の取組につながる前向きな回答を得ました。





トピック2 津山圏域クリーンセンターリサイクルプラザ来館者数20万人達成

津山圏域クリーンセンターリサイクルプラザは、開館10年目にあたる2025年9月11日に来館者数20万人を達成しました。開館前には年間6千人の来館者を目指していましたが、1年目には1万人を突破し、その後年間2万人超の来館者を確保しました。コロナ禍の2020年度では年間来館者数が2万人を割り込みましたが、累積来館者数10万人を達成、圏域内小学校の見学受入など地域に根付いた活動により、その後は順調に来館者を回復し、この日を迎えることができました。2025年度では、インスタグラムの開設、廃食用油の回収も新たにはじめ、今まで以上に地域に必要とされる環境学習施設を目指していきます。

●リサイクルプラザの活動

●リユース品の受入・譲渡　●工場棟(焼却施設)の見学
●3R体験工房プログラム　●廃食用油回収 NEW!

●イベント

●夏の体験スペシャルイベント(夏休み期間実施)
●リサイクルフェア(秋期実施)



本業に関する環境目標取組結果およびトピック
総務部

【評価】○達成　△一部未達成　×未達成

サイト・部署	取組テーマ	2025年度目標(到達点)	評価	目標達成状況
総務部	DXとマネジメントシステム	・全体会議の電子化(部所長会議、安全衛生委員会) ・ChatGPT利用による生産性向上時間900時間/年 ・マネジメントシステム運営に係る工数10%削減(2023年度比)	△	・全体会議を電子化するにあたり、各種ツールについて比較検討を行ったが、導入コストを上回る効果が現時点では見出せず、目標を取り下げることとした。 ・活用事例の情報発信を行い、生産性向上時間1,825時間 ・内部監査実施部署のローテーションによる開催、報告会の取りやめを実施したことによる事業団全体の削減時間約74時間で約23%削減
	人的資源+ウェルビーイング	・OJT制度の見直し完了 ・職種別キャリアパス完成 ・ウェルビーイングアンケート結果10%向上	△	・人材育成上の効果、制度運用にかかる管理負担、代替策の有無等を総合的に勘案し、OJT制度は廃止とし見直し完了 ・キャリアパスの案を作成し、制度化した場合の生じうる問題点について検討した結果、キャリアパスの策定を見送ることで完了 ・ストレスチェック結果のうち、ウェルビーイングに関する項目の平均数値を2024年度対比で10%改善することを目標としていたが、1.6%改善で未達
	カーボンニュートラル	・電気設備のトランス・コンデンサを3月までに更新	○	・電気設備のトランス・コンデンサの更新完了

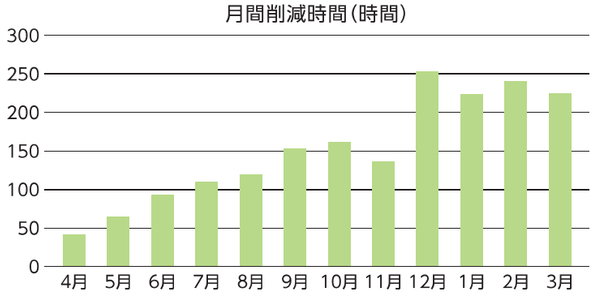
トピック　生成AI利用による生産性向上

●生成AIの利用促進と伴走支援

「業務の付加価値向上のための時間創出」を目指し、セキュアな生成AIを利用しています。
社内回覧「生成AIのススメ」を定期配信し、利用定着に向けた伴走支援を行っており、月間の削減時間は上昇傾向にあります。

・利用促進の工夫

基礎からデータ分析まで、わかりやすいマニュアルを展開。プロンプトのコツやテンプレートを共有し、誰もがすぐに活用できる環境を整えました。

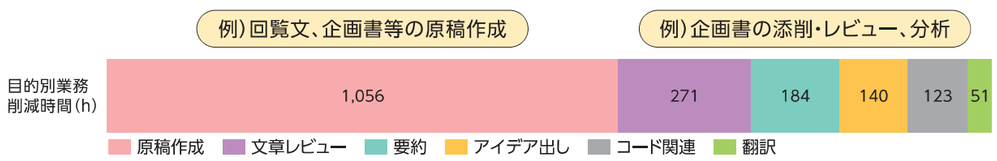


●具体的な活用事例と導入効果

利用時間の約6割が「原稿作成」、次いで「文章レビュー」「要約」に活用されています。

・生成AIの効果とメリット

音声からの議事録作成や資料要約を短時間で処理し、資料作成の負担を軽減しました。また、アンケート集計や企画書のAI添削を実施し、業務品質の標準化に貢献しています。



●職員からの反響

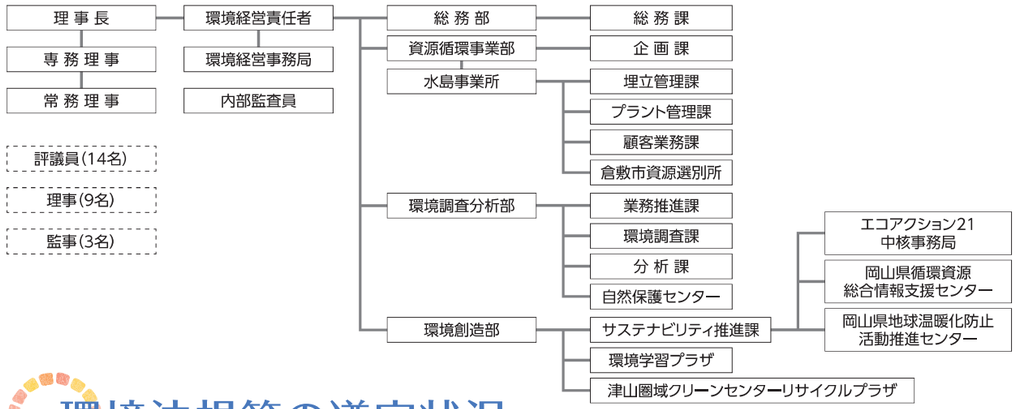
実際に利用した職員からは「議事録の作成が楽になった」「データの確認作業がスムーズになった」「資料作成の効率化につながった」という声が多く寄せられています。

結果として、年間1,825時間の生産性向上(目標比202%達成)を実現しました。今後も新たなテクノロジーを積極的に取り入れ、働きやすい環境づくりを推進します。

代表者による全体の評価と見直し指示

経営方針	第7期中期経営計画(2024～2026年度)の最終年度となるため、重点施策の内容に変更がないか確認し、必要に応じて、2026年4月1日付で改訂すること
目的、目標	**●2026年度の目標について** 今年度の活動および結果の振り返りを行い、第7期中期経営計画(2024～2026年度)の最終年度として、3か年計画を達成できるように目標を設定すること。 **●第8期中期経営計画(2027～2029年度)策定について** 快適で持続可能な地域社会の実現に寄与するという事業団の役割を前提に、地域社会の今後の姿と事業団を取り巻く環境の変化を踏まえて中期経営目標の検討などを行い、次期(第8期)中期経営計画を策定すること。策定にあたっては以下3点を検討し、実施すること。 **(1)中期経営計画ビジョンの想定年について** 第7期中期経営計画では2030年を見通したビジョンとしているが、関連する岡山県環境基本計画が2040年頃に目指す姿を掲げていることを踏まえ、第8期中期経営計画で掲げるビジョンは2040年に向けたものとし、それを前提とした計画を策定すること。 **(2)重点方針について** 計画策定にあたっては、事前に役員が示す団全体及び各部門の重点方針(目的、重点領域、期待成果)に沿った内容とするよう、検討すること。 **(3)策定プロセスについて** 第7期中期経営計画の策定プロセスを振り返ったうえで、従来の策定プロセスに捉われることなく、生成AI等のデジタルツールを積極的に活用するなど、生産性向上を意識して取り組むこと。また、策定にあたっては事業団の将来を担う若年層職員の意見を積極的に取り入れること。なお、策定に取り組む職員の負担が過剰に増加することがないように、管理職は業務の配分や見直しなどの環境づくりに取り組むこと。
EMSのその他の要素	本業による「持続可能な開発目標(SDGs)への取組」、「カーボンニュートラル目標達成に向けた取組」について、必要に応じて他部所と連携し、SNSやデジタルツール、ホームページ等を活用しながら、各部の特色ある取組を積極的に外部へ情報発信すること。
実施体制	変更なし

実施体制・組織図



環境法規等の遵守状況

環境負荷を低減するため、可能な限り法規制よりも厳しい自主管理基準を設定し、定期的に環境関連法規の確認(年2回)を実施しています。過去3年間、環境関連法規違反、関係機関等からの指導、指摘、訴訟は1件もありません。

対象法令等一覧

法的及びその他の要求事項　対象法令等		
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	エネルギーの使用の合理化及び非化石エネルギーへの転換等に関する法律	地球温暖化対策の推進に関する法律
岡山県環境への負荷の低減に関する条例	大気汚染防止法	水質汚濁防止法
騒音規制法	振動規制法	土壌汚染対策法
瀬戸内海環境保全特別措置法	悪臭防止法	浄化槽法
特定家庭用機器再商品化法(家電リサイクル法)	建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律(建設リサイクル法)	使用済自動車の再資源化等に関する法律(自動車リサイクル法)
毒物及び劇物取締法	ダイオキシン類対策特別措置法	消防法(危険物関連)
高圧ガス保安法	放射性同位元素等の規制に関する法律	自然公園法
公有水面埋立法	岡山県環境影響評価等に関する条例	岡山県循環型社会形成推進条例
労働安全衛生法	公害防止協定・環境保全協定(倉敷市)	水質汚濁に係る環境基準について
特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律(PRTR法)	フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律(フロン排出抑制法)	プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律

循環型社会形成の取組

倉敷市より優良産廃処理業者の認定を受け、安全性、信頼性の高い廃棄物埋立及び焼却処理、再生（資源化）処理を行っています。

1. 2025年度廃棄物処理実績

受託した産業廃棄物の処理量	中間処理量（焼却）	70,535t
	中間処理量（再生）	9,919t
	最終処分量（埋立）	224,178t
受託した一般廃棄物の処理量	中間処理量（再生）	17,510t
	最終処分量（埋立）	32t

※自社での中間処理物、自社から排出した廃棄物を含む。

2. 廃棄物埋立

廃棄物の受け入れから処理処分まで、一貫した管理体制で厳しくチェックしています。

また、処分場内の保有水は、排水処理場の高度な処理工程を経て協定等の厳しい排水基準をクリアするきれいな水に処理して排水しています。

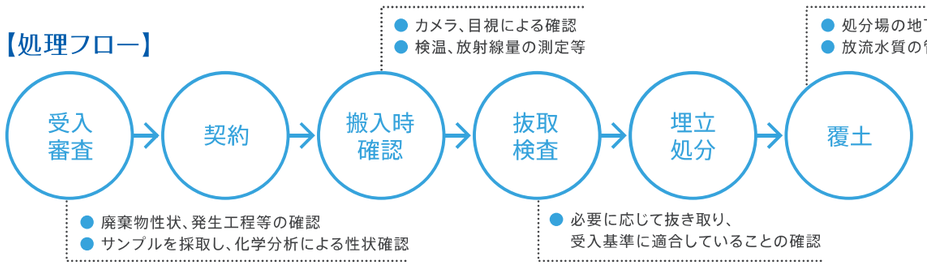
2018年7月の豪雨災害では、発生した災害廃棄物を迅速に処理するため、水島処分場を仮置き場及び処理プラントの敷地として提供しました。また、リサイクルできない廃棄物や選別後の土砂を約12万t受け入れました。

- 処理施設の種類：管理型最終処分場
- 埋立面積（容量）：約23万㎡（約460万㎥）
- 残容量：約206万㎥(2026年3月現在)



水島事業所内の各施設

【処理フロー】



3. 焼却処理

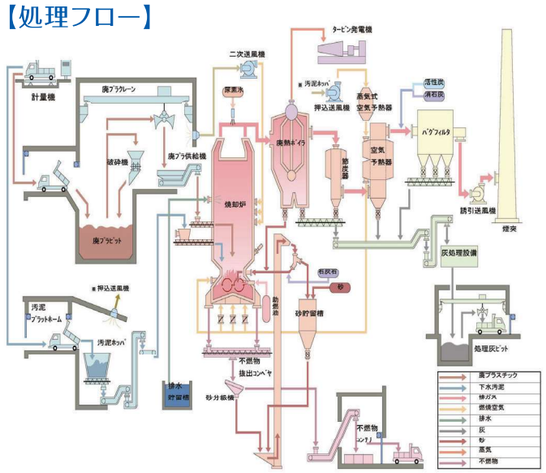
廃プラスチックピット内ではミスト噴霧による粉じんの抑制、汚泥ピット内ではシャッターとエアカーテンの設置等による臭気漏洩の抑制などの環境対策を行っています。

旋回型流動床焼却炉では、ダイオキシン対策として、炉内目標温度を900℃以上に設定し、燃焼ガスの滞留時間を2秒以上となるよう管理しています。

また、発生する燃焼ガスは高度な排ガス処理設備により処理し、クリーンな状態で大気に放出しています。

- 処理施設の種類：流動床式連続焼却施設
- 処理能力：汚泥420㎥/日、廃プラスチック類78t/日
  紙くず163t/日、木くず194t/日、
  繊維くず101t/日、ゴムくず67t/日
  ※処理能力は、設置許可に準ずる
- 発電能力：1,200kW

【処理フロー】



4. 再生（資源化）処理

排ガスは、減温塔で急冷することでダイオキシン類の再合成を抑制するとともに、活性炭・消石灰を噴霧し、バグフィルタで有害物質を除去します。さらに触媒や煙突内のスクラバで窒素酸化物や硫黄酸化物を除去し、大気中に放出します。

また、排ガス処理施設における各設備には、当該施設の最大排ガス量31,800Nm³/hを十分に処理できる能力を有しています。

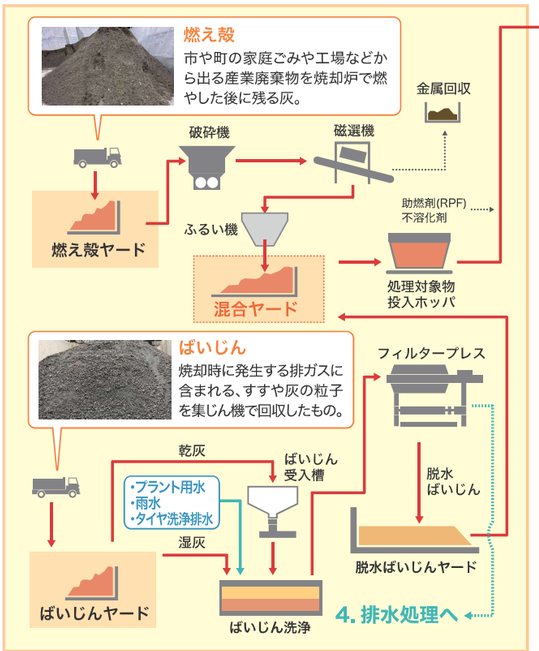
排水処理施設では、ばいじん洗浄設備フィルタープレスからのろ液、排ガス処理設備スクラバからの排水を処理しています。排水は次亜塩素酸ソーダにより窒素成分を分解除去し、その後、凝集剤やpH調整剤を添加し、重金属類等のSS成分を沈殿除去します。

さらに後段の砂ろ過処理及び活性炭処理により、残存する有害物質を吸着除去したうえで放流基準値内に収まるよう中和処理し、海域へ放流します。また、排水処理施設における各設備は、当該施設の最大排水量500㎥/日を十分に処理できる能力を有しています。

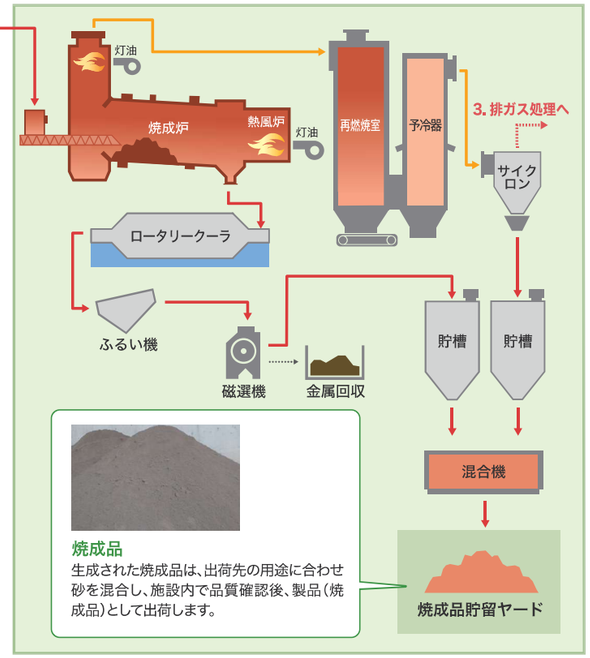
- 受入対象物：燃え殻、ばいじん
- 処理方式：焼成
- 処理能力：混合灰153.6t/日、燃え殻144.0t/日、ばいじん164.6t/日

【処理フロー】

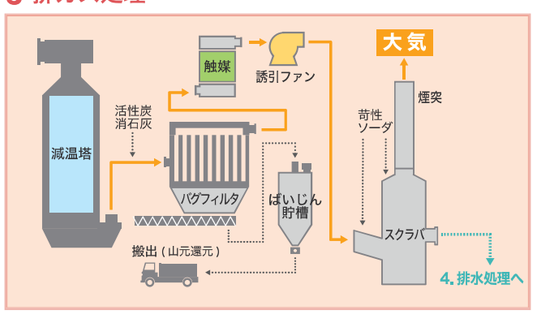
1 燃え殻・ばいじん前処理



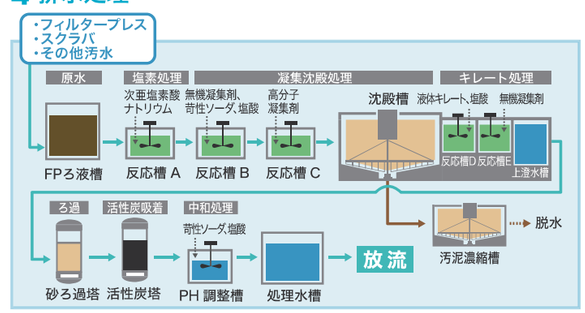
2 焼成工程



3 排ガス処理



4 排水処理



処理対象物の流れ　排ガスの流れ　排水の流れ　汚泥の流れ

許可事項

1. 廃棄物関連

【産業廃棄物処分業許可：水島処分場・水島クリーンセンター・みずしま資源再生センター】

許可年月日及び許可番号	2024年10月17日 第10040005888号
許可の有効期限	2030年3月26日
事業区分	中間処理（焼却） 最終処分（埋立）
廃棄物の種類	【焼却】燃え殻、汚泥、廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、ゴムくず、ばいじん（これらのうち石綿含有産業廃棄物及び水銀使用製品産業廃棄物を除き、水銀含有ばいじん等（水銀の回収が必要なものを除く）を含む） 【埋立】燃え殻、汚泥（無機性汚泥に限る）、廃油（タールピッチ類に限る）、廃プラスチック類（自動車等破砕物を含む）、紙くず、木くず、繊維くず、ゴムくず、金属くず（自動車等破砕物を含む）、ガラスくず・コンクリートくず（がれき類を除く）・陶磁器くず（自動車等破砕物を含む）、鉱さい、がれき類、ばいじん、産業廃棄物を処分するために処理したもの（これらのうち石綿含有産業廃棄物、水銀使用製品産業廃棄物及び水銀含有ばいじん等を含む）

【特別管理産業廃棄物処分業許可：水島処分場・みずしま資源再生センター】

許可年月日及び許可番号	2023年9月15日 第10090005888号
許可の有効期限	2029年7月20日
事業区分	中間処理（焼却） 最終処分（埋立）
廃棄物の種類	【焼却】特定有害産業廃棄物 燃え殻（カドミウム又はその化合物、鉛又はその化合物、六価クロム化合物、砒素又はその化合物、セレン又はその化合物若しくはダイオキシン類を含むことのみにより特定有害産業廃棄物となるものに限る） ばいじん（水銀又はその化合物（アルキル水銀化合物及び水銀の回収が必要なものを除く）、カドミウム又はその化合物、鉛又はその化合物、六価クロム化合物、砒素又はその化合物、セレン又はその化合物、1,4-ジオキサン若しくはダイオキシン類を含むことのみにより特定有害産業廃棄物となるものに限る） 【埋立】廃石綿等

【産業廃棄物処理施設設置許可：水島クリーンセンター】

許可年月日及び許可番号	1997年2月10日 第3-(3)-2号
施設の種類	汚泥の焼却施設、廃プラスチック類の焼却施設
廃棄物の種類	【焼却】汚泥、廃プラスチック類（これらのうち石綿含有産業廃棄物、水銀使用製品産業廃棄物及び水銀含有ばいじん等を除く）
処理能力	汚泥420㎥/日、廃プラスチック類78t/日

【産業廃棄物処理施設設置許可：水島クリーンセンター】

許可年月日及び許可番号	2010年2月25日 第（13の2）-K04号
施設の種類	産業廃棄物の焼却施設
廃棄物の種類	【焼却】紙くず、木くず、繊維くず、ゴムくず（これらのうち石綿含有産業廃棄物、水銀使用製品産業廃棄物及び水銀含有ばいじん等除く）
処理能力	紙くず163t/日、木くず194t/日、繊維くず101t/日、ゴムくず67t/日

【一般廃棄物処理施設変更許可：水島処分場 第1処分場】

許可年月日及び許可番号	2003年3月20日 第200001号
施設の種類	最終処分場
廃棄物の種類	【埋立】一般廃棄物溶融スラグ、ばいじん

【一般廃棄物処理施設変更許可：水島処分場 第2処分場】

許可年月日及び許可番号	2006年11月21日 第100002号
施設の種類	管理型最終処分場
廃棄物の種類	【埋立】一般廃棄物（有機性のものを除く）

【産業廃棄物処理施設変更許可：水島処分場 第2処分場】

許可年月日及び許可番号	2023年3月24日 第（14のハ）-K01号
事業区分	管理型最終処分場（海面埋立）
廃棄物の種類	【埋立】燃え殻、汚泥（無機性汚泥に限る）、廃油（タールピッチ類に限る）、廃プラスチック類（自動車等破砕物を含む）、紙くず、木くず、繊維くず、ゴムくず、金属くず（自動車破砕物を含む）、ガラスくず・コンクリートくず（がれき類を除く）・陶磁器くず（自動車等破砕物を含む）、鉱さい、がれき類、ばいじん、産業廃棄物を処分するために処理したもの（これらのうち石綿含有産業廃棄物、水銀使用製品産業廃棄物及び水銀含有ばいじん等を含む）、廃石綿等

【産業廃棄物処理施設設置許可：みずしま資源再生センター】

許可年月日及び許可番号	2021年12月8日 第（13の2）-K10号
事業区分	産業廃棄物の焼却施設
廃棄物の種類	【焼却】1.産業廃棄物 燃え殻、ばいじん（これらのうち、石綿含有産業廃棄物及び水銀使用製品産業廃棄物を除き、水銀含有ばいじん等（水銀の回収が必要なものを除く）を含む） 2.特別管理産業廃棄物 （1）特定有害産業廃棄物 ア 燃え殻（カドミウム又はその化合物、鉛又はその化合物、六価クロム化合物、砒素又はその化合物、セレン又はその化合物若しくはダイオキシン類を含むことのみにより特定有害産業廃棄物となるものに限る） イ ばいじん（水銀又はその化合物（アルキル水銀化合物及び水銀の回収が必要なものを除く）、カドミウム又はその化合物、鉛又はその化合物、六価クロム化合物、砒素又はその化合物、セレン又はその化合物、1,4-ジオキサン若しくはダイオキシン類を含むことのみにより特定有害産業廃棄物となるものに限る）

【一般廃棄物処理施設設置許可：みずしま資源再生センター】

許可年月日及び許可番号	2021年12月8日 第100007号
施設の種類	一般廃棄物の焼却施設
廃棄物の種類	【焼却】燃え殻、ばいじん

2. 環境調査関連

【計量証明事業登録】

登録年月日及び登録番号	1976年1月17日 岡山県 第6-1号
事業区分	濃度に係る計量証明の事業

登録年月日及び登録番号	1976年1月17日 岡山県 第7-1号
事業区分	音圧レベルに係る計量証明の事業

登録年月日及び登録番号	1994年3月31日 岡山県 第8-1号
事業区分	振動加速度レベルに係る計量証明の事業

【作業環境測定機関登録】

登録年月日及び登録番号	1977年5月26日 岡山労働局 33-5

【土壌汚染対策法に基づく指定調査機関】

指定年月日及び指定番号	2003年8月8日 岡山県 2003-33000-3001

【ISO/IEC17025】

認定年月日	2009年6月12日
事業区分	RTL02920、化学試験、産業廃棄物分析（産業廃棄物に含まれる金属等の検定方法）

3. 指定管理

【岡山県自然保護センター】

開始年月日及び指定管理期間	2007年4月1日～2030年3月31日
事業区分及び業務	岡山県公の施設指定管理者制度、施設等の管理・運営業務

4. その他

岡山県地球温暖化防止活動推進センター	【指定年月日】2002年5月30日 岡山県知事指定
岡山県循環資源総合情報支援センター	【指定年月日】2004年3月26日 岡山県知事指定
エコアクション21地域事務局	【認定年月日】2015年3月11日 認定番号 1-060